

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100570		
法人名	有限会社 タケダ建設		
事業所名	グループホーム ほうむ川上		
所在地	佐賀市大和町大字川上760番地1		
自己評価作成日	令和4年8月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和4年9月2日	外部評価確定日	令和4年10月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>☆基本理念 「思いやり」の気持ちを持って、住み慣れたご自宅同様な雰囲気の中で、心からゆったりくつろげるサービスを心がけ、安心してご利用いただける場の提供を目指します。</p> <p>☆基本方針 ・利用される気持ちや意思を尊重し、利用者様中心のサービスを提供します。 ・介護の質の向上に努力します。 ・全てのスタッフも含め、利用者様が共に支え合う喜びを味わえる場所づくりを目指します。</p> <p>今後も今まで同様に地域の方々や地元の方々との交流やご支援、ご協力頂き、選ばれる施設を目指していきます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>法人で4施設を所有されている中の事業所で開設2年目の新しい事業所である。山あいの静かな住宅の中の広い敷地に位置している。リビングは大きな窓ガラスで明るく季節の移り変わりや、地元の方が手を振られる様子に利用者は喜ばれ、楽しみにもなっている。管理者は利用者主体で家族を大切にする。統一ケアを目指し、スタッフの質の向上を目標にしている。細やかに利用者の思いや、やりたい事が出来、さりげなく意欲に繋がり、より良い生活が出来るように安全で自己現実に基づいた支援をされている。地域の中で安心して日常の生活が出来る様に支援されている。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着ならではの支援を考慮した理念のもと、支援についての協議の際には職員の共通の意識を持ち、理念を支援の目標として実践につなげている。勉強会ごとに全員で読み上げ確認している。例)その人の生活歴や価値観を尊重した支援を検討するようにしている。	理念は事務所に掲げられ、集まりの際には唱和され共有している。他にも自分自身がここで暮らしたいと言う文言を掲げられ、迷ったり、悩んだりした時に振り返る事が出来る。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナウイルス感染予防対策として積極的には交流を行っていないが、玄関口や窓越しでの面会を行っている。また敷地内での花づくりや近隣の方から頂いた野菜を生かした料理づくりを回想を交えた会話を取り入れている。災害時の対応としても地域の方々との助け合いを検討しているところである。	自治会に加入し、回覧板で町内の情報が得られている。事業所の行事の際には近隣にチラシを配布し効果を得られている。日頃声を掛けてもらったり、季節の野菜を頂き触れ合う事もある。今後は事業所から発信して地域と多く関わって行きたい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在コロナウイルス感染予防対策として積極的な活動は行っておらず事業所内での研修のみとなっている。認知症家族の会やオレンジカフェなどで認知症の方とのかかわり方や認知症についての理解について包括支援センターと協働し地域に貢献できればと思っている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議では御本人様や御家族様に意見をいただき職員間でも情報を共有しながら支援できるように努めている。また話合いの結果を御家族様へも文章にして伝え情報の共有を図り支援を行っている。	コロナ禍の影響でメンバーが揃っての会議は出来ていない。議事録作りは職員会議で入所者、待機者の状況、研修会、行事報告、連絡事項を確認し作成。「ほうむ新聞」と共に地域包括支援センター、自治会、家族に配布されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	本来、2ヶ月に1度の運営推進会議で市町村、地域包括支援センターとの連携を図るべきところではあるが、現在はコロナウイルス感染予防対策として書面や電話で事業所としての実績を報告するに至っている。	困り事や相談は主に地域包括支援センター、広域連合から実地指導を受けた。利用者は病院のソーシャルワーカーや家族等の紹介での入所もある。行政への書類の手続き等職員が代行し、いつでも相談出来る関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1回、身体拘束等適正化対策委員会で会議を行い職員へ周知している。(議事録を参照)玄関の施錠においては離接と急な来所者への対応として職員が直ぐに対応できない場合に限り施錠している。	身体拘束の研修は全員参加で行われている。拘束の事例はない。拘束適正委員の会議で話し合い、拘束の弊害は周知されている。またビデオでの研修もあり、感想を聞き、事例を挙げての研修は分かり易い。玄関を入るとリビングがあり、利用者職員が揃っての作業の際には玄関は解放されている。スピーチロックにも気を付けられている。年間研修の計画が事務所に掲げられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に3回、研修を行い虐待防止の徹底と介護の実際を振り返り、勉強会を行い職員へ周知している。またヒヤリハットを用い勉強会だけでなく常に意識するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に2回、権利擁護に関する研修会を開催し虐待防止、後見人制度についても意識を高めるように周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者および看護師が契約に関する説明を行い、御家族様へ御理解いただけるように分かりやすく説明を行っている。また契約時だけでなく入所後も折に触れ、不明な点や質問を受け御理解・納得いただけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1年に3回ほど、御家族様へのアンケートを依頼し、文章にして職員へ伝え、支援につなげている。また運営推進会議にて情報公開に努めている。	半年に1回利用者家族にアンケートをお願いしている。プランの変更、楽しく過ごせているか、何を求めているか等家族とは面会の時や電話で要望を聞いている。面会は玄関で距離をおいての面会である。コロナ禍で面会が少なくなった。家族は毎月の「ほうむ新聞」で日頃の様子や写真等コメントも楽しみにされ、安心されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の勉強会時に意見や提案を聞く機会を設けている。また内容を検討し支援につなげる仕組みを整えている。	職員同志はコミュニケーションも良く何でも言い易い。毎月イベントの計画があり、リーダーを決めシナリオや家族や近所に案内等作成し、職員の意見を尊重し安全を第一とし、みんなで話合って解決している。勤務交代も「お互い様」という気持ちで助け合い働き易くなっている。職員からイベント制限の話があり現在検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善を含め、各々と面談を行いより良い職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修と同施設での月1回の勉強会に加え、法人内でも月1回は勉強会を開催している。勉強会の内容はその時々での課題や各施設での情報交換を行い、各々のレベルアップにつなげるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内での交流はありますが、その他の法人との交流は現在コロナ感染予防対策として行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談や基本情報をもとに、その方の生活歴や趣味嗜好、言葉など御本人がなじみやすい環境づくりから安心感が得られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御本人様同様、御家族様へも入居前から現在の困りごと、今後の意向を確認しながら個別支援ができるように務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前、入所時の段階で御本人様、御家族様と面談し、支援者側が考える支援ではなく御本人様、御家族様の意向を重視し支援につなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をする。という姿勢ではなく、「一緒に生活をする、お互い助け合い。」の姿勢を築くように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今までの家族関係や家族介護のねぎらいをしながら、御本人様の良かった頃の思いを聞き出し、今後の支援につなげるように努めている。御家族様との面談や電話などかわりの都度、話を伺うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、コロナウイルス感染予防対策として積極的な交流や外出を行っていないが、御家族様との距離をとっての面会や思い出の場所の話をさせていただいたり、思い出の食事を皆さんで調理して支援に努めている。	コロナ禍で思うようには出来ないが様子を見て下車することなく全員でドライブに出かけている。受診の帰りには自宅の様子を見に行く事もある。家族の協力により墓参り、外泊される方もある。携帯を持参されている方は友人や家族と連絡を取られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様同士の性格や趣味などを生かし調理や作業、小物づくりなどをお互いで協力できるように職員が仲介役となったり、小人数でも取り組める事を提案しながら協働できる仕組みづくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、サービス契約終了後においてもいつでも相談を受ける体制づくりを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	御自分で意向が話せる方には日常生活の折に触れ、確認をしている。困難な方には御家族様からの聞き取りや、日々の生活の中からの行動の時にどのような反応をされるのか、どのような時に笑顔になるのかなどを確認しながら職員間での情報を共有しながら、支援を行っている。	利用者の思いを得る為、日々の生活の中で思わぬ表情やつぶやき等小さな変化に気を付けている。マッサージしながら話易い雰囲気を作り、個別に話をする。その中で通帳のことや帰りたい、買い物に行きたい、美味しいものを食べたい等聞くことが出来、記録に残し、ケアプランの参考にしている。耳が遠い方には耳の近くで話し、筆談で対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の基本情報(生活歴、その年代、家族関係や住んでいた地域など)と合わせ入所後に得られた情報も含め把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	大まかな食事の時間は決めている(衛生上)がその日の健康状態、睡眠時間、精神状態を看護師の意見を参考にしながら個人としての生活リズムを尊重するように努めている。職員同士が情報の共有をできるように努めている。御家族様からの情報による生活歴を参考にすることもある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まずは御本人様の生活上での言葉や表情と毎日の生活記録を参考に良いところ、できることを確認。看護師や職員と支援について協議会を開催し介護計画を立案している。	家族からの要望を電話で問い合わせ、日々の記録を基に申し送りノートを参考にしている。途中変化が有る際にはその時点で本人の現状に合わせ変更され家族にも報告されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の健康管理と合わせ具体的支援の実施項目を記載し職員一人一人がその方の支援ができるようにしている。また申し送りやカンファレンス、勉強会においても個別計画書の見直しとして自由に発言できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々体調や精神状態の変化を職員や看護師とともに共有し、今できる適切な支援を行えるように検討、実施に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナウイルス感染予防対策として地域資源との協働は行っておりません。今後は感染状況を踏まえ、取り組める体制づくりに努めます。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの主治医との信頼関係を維持できるようにしている。また病気の症状によっては御家族へ連絡し主治医、または専門医受診など検討していただき受診を行っている。受診後は御家族様へも報告を行っている。	主に入所前のかかりつけ医に職員が同行しての受診である。受診の際には情報を持参し、医師の指示を得ている。その結果や変更は家族に報告されている。往診は月1回。歯科は訪問治療である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護師がフラットな関係を築き協働できるように日々努めている。具体的病状の観察方法、薬剤の変更や服薬後の観察の視点、その他医学専門的情報(医師の指示も含め)を職員間で確認できるように申し送りやその都度共有できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護師より入院時情報を持参し退院時(前)には入院状況や退院後の支援での注意事項を確認するように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	マニュアルと指針を作成し入所契約時において当施設の取り組みを説明し御家族様に御理解いただく。重度化になられた場合におきましても主治医を含め御本人様御家族様の意向を確認しながら話し合いの場を設けている。	重度化や終末期の対応について入所時に説明されている。事例の経験はないが、今後希望者があることを想定し、対応出来るように外部や事業所での看取りの研修も計画されている。家族の泊まりも受ける。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを作成し、職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っている。マニュアルの作成やハザードマップの確認だけでなく実際に役立つ災害対策としての詳細を作成中です。別紙参照。	年2回消防署立会いで夜間想定の実施状況 年2回消防署立会いで夜間想定の実施状況である。事業所の周囲は民家がある。近隣に回覧板やチラシで訓練の案内をし、地域の参加と協力を募っている。その際に事業所内を見学してもらいたい事もある。自治会にはいつでも相談出来心強い。備蓄の準備はある。リビングの大きなガラス窓は2重ガラスになっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他者との共有事項、または個別対応など周囲の状況と御利用者様の性格や生活歴を考慮しながら言葉掛けを行うように努めている。	接遇の研修を行い言葉遣いには気を付けている。大声や声のトーンにも注意されている。佐賀弁も上手く使い利用者を身近に感じ親しみが有り、分かり易く伝わり、理解も速い。職員の気になる行動については、管理者が個別に指導し、一声かけるように心掛けている。個人情報保護管理も理解されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者様が感情や思いを表出しやすいような環境づくり、言語、表情など御本人の性格を生かした個別対応を行い自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴、居室での休息など御本人の希望に沿い(確認しながら)支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人様の好みを取り入れ髪型や洋服、身だしなみができるように支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御利用者様一人一人の好みや食べやすい食事形態、盛り付けを考慮しながら食事を提供している。また昔懐かしメニューを御利用者様と一緒に調理したり、片付けを行っている。御利用者様のできることを生かし分担作業をしている。	利用者の嗜好も取り入れ、症状に合わせ、塩分制限等医師と相談しながら職員が献立を作成している。希望食、イベント食も計画され利用者と共に作業されている。コロナ禍で一緒に食べる事は出来ないが、職員は利用者の傍で介助されている。利用者の食べ易い形態にしている。利用者はホーム特製のうどん作りを楽しみ、食べる喜びを感じられている。現在外食は出来ないが寿司のテイクアウトで楽しまれた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	心不全や透析、糖尿病の御利用者様やその日の体調に合わせて栄養分を確保できるように支援している。(牛乳や退院後で体力が低下した御利用者様へのプロテインの提供など)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、確認を行っている。介助が必要な方には介助を、うがいのできる方などその方その方ができることも生かしてケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	御利用者様との意向を尊重し、布パンツ、リハビリパンツかおむつかを選択。排泄はトイレで行う事を基本に御利用者様の羞恥心、場の雰囲気なども考慮し支援を行っている。	排泄パターンや利用者の様子や仕草を観察し、タイミングを見て誘導されている。ポータブル、センサーマットの使用はない。排便については医師に相談し薬の使用もある。自立に向けて支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や食材の検討、活動量(運動)を職員と一緒にしたりと、なるべく薬剤に頼らないように取り組んでいる。また排便の確認は必ず行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	御利用者様の意向も踏まえ、計画では週3回と状況により追加入浴支援を行っている。また入浴時間は御利用者様の希望を確認し、決して業務としての入浴とならないように支援を行っている。	週3回の入浴であり、男性が先に入浴されている。衣類の着脱の出来る方もあり声掛けや話をしながら誘導されている。湯上りには好きな飲み物を提供されている。拒む方はいない。今後季節湯や足浴も計画されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常生活の過ごし方(活動量や食事時間との関係)、生活習慣と合わせ薬剤や精神面も考慮して個別に休息ができるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	御利用者様の主となる病気や重要な薬については支援内容に組み込み職員が確認、認識できるようにしている。またどのような変化が重要なのかなども含め看護師から説明し支援につなげるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理が得意な方、野菜や花づくりが得意な方、洗濯物たたみや小物づくりが得意な方など、今までの経験値も含めその方へ個別支援を行うことで自信につながり楽しみや役割としての達成感と気分転換ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナウイルス感染予防対策として病院受診以外の外出は行っていないが受診時にドライブとして花見やこいのぼり見学などを行っている。気候が良い日、時間帯には施設敷地近くでの桜やひまわり見学に出かけている。	思い通りの外出は出来ていないが天気のいい日や、利用者の体調に合わせ広場で日光浴を楽しみ、気分転換になっている。自然の中で桜、花見、お月見が出来、季節を感じてもらっている。日の出は見事で癒され楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の御利用者様はお金を所持されておりますが使う機会は現在ありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外出や御家族様との面会も制限されているため、御利用者様が自分で電話ができる方は自由に、そうでない介助が必要な方には職員が介助して電話を行い家族との連絡や会話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間では御利用者様が安心できる明るさと温度、色などを用い、季節感を感じられるはり絵を廊下に飾るなど工夫をしている。	リビングルームは大きなガラス窓で囲まれ明るく、外の景色や季節の移り変わりが感じられる。大きなソファでテレビを見たり、数人集まり貼り絵やぬり絵を会話しながら楽しく作成され、思い思いに過ごされている。廊下には利用者作成の貼り絵の作品が掲示されている。利用者は職員のかげ声でうどん作りを楽しまれている。掃除は職員と利用者でされ、廊下には障害物もなく安全である。加湿器や換気で臭いは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的には個室対応とし、ホールで過ごす時にはテーブルや椅子の配置など御利用者様の希望に合わせて過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御利用者様の思い出の品物を部屋に飾り、時にはその品物を話題にしたりと居心地良く過ごせるように工夫している。	居室入口には利用者の思いに沿って好きな色紙を使って名札を職員と作成し分かり易くなっている。ご夫婦で入所され、寝室と居間に分けられ生活されている。奥様はエプロンを身に付けられ、食事の手伝いもされている。整理整頓されている居室もあるが、そうでなくても利用者本位と認められている。馴染みの品物の持ち込みは自由であり、お仏壇、テレビ、家族の写真、衣裳ケース等がある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋に御利用者様の名前がわかるように名札を設置したり、季節の物や御利用者様皆さんで協力して作成した貼り絵などを展示し、話題として取り入れ御利用者様の自信につながるように工夫している。また御利用者様がわかる言語、なじみの言語を使い(お風呂・便所など)支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
		○	3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない